

自伝的記憶の生涯発達

上原 泉 / UEHARA, Izumi

人間発達教育科学研究所

■専門分野 実験心理学, 教育心理学

■キーワード 認知発達, 自伝的記憶

連絡先

研究内容

■概要（背景・目的・内容）

これまで実施してきた自伝的記憶に関する縦断的事例調査の成果の一部を論文にまとめ公表したが（Uehara, 2015）、引き続き実施するとともに、幼児期後期以降の縦断的調査データの分析作業をすすめる。今後、他の年代の横断的な調査（共同研究）の分析成果と併せることで、自伝的記憶の生涯発達の過程の解明に貢献できればと考える。将来的には、各年代でのアイデンティティ、思い出すことの機能、ウェルビーイングに関する知見につながればと考える。

■応用・将来展望

縦断的調査のデータを少しずつでもさらに公表をすすめていきたい。少数の事例ながら縦断的調査は成人期まで続いているので、共同で行う、児童期、思春期や青年期、高齢期の自伝的記憶の調査知見とあわせて検討することで、自伝的記憶の生涯発達の過程を解明し、各時期（幼年期、思春期、青年期、高齢期）でどのような記憶が残りやすく、それらが、各時期のライフイベントや考え方、ウェルビーイングにどうつながるか検討したい。

■活動実績

- ・日本理論心理学会、理事、2014.01-
- ・公益社団法人「日本心理学会」代議員（地域別代議員）、委員、2015.06-
- ・公益社団法人「日本心理学会」認定委員会委員、委員、2015.11-
- ・「認知心理学研究」編集委員、委員、2015.10-
- ・「発達心理学研究」編集委員、委員、2014.01-2015.12

主要研究成果

- ・（英語）、Izumi Uehara, 「Developmental changes in memory-related linguistic skills and their relationship to episodic recall in children.」、PLoS ONE、10 巻、(9) 号、2015.09
- ・上原 泉、1 章 Q 7 子ども時代の思い出はどこまで正確なのですか？、兵藤宗吉・野内類、『Q&A 心理学入門』、ナカニシヤ出版、Pp.82-91 2015.10
- ・上原 泉、「記憶を追う—幼少期からの縦断研究 小特集「縦断的研究のコツ」」、心理学ワールド、2013.07
- ・（日本語）、上原 泉、1 1 章 子どもにとっての幼少期の思い出、清水 由紀・林 創、「他者とかかわる心の発達心理学」、金子書房、2012.03